

| | |
|------------|--|
| 氏名 | 劉岩 |
| 博士の専攻分野の名称 | 博士（工学） |
| 学位記番号 | 医工博甲第416号 |
| 学位授与年月日 | 平成29年9月27日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第1項該当 |
| 専攻名 | 環境社会創生工学専攻 |
| 学位論文題目 | 伝統的資源活用型観光地における観光客の意識に関する研究 —中国成都市を対象として— |
| 論文審査委員 | 主査 教授 大山 勲 山梨大学地域未来創造センター長教授 北村 眞一 教授 佐々木 邦明 准教授 高橋 智子 准教授 秦 康範 准教授 島崎 洋一 |

学位論文内容の要旨

中国の伝統的資源を活用する観光地では、観光振興が地域活性化の重要な手段として期待される一方で、過剰な観光開発が目立ってきている。伝統的資源活用型観光地の娯楽観光化は今の中国人のニーズに沿った結果なのか、本物の伝統的建築や生活文化の消失は観光客の不満に繋がっていないのかといった観光客の意識の動向を明らかにすることは今後の中国の観光政策を検討する上で、さらに日本のインバウンド観光政策を検討する上でも重要である。しかし、伝統的観光地に対する観光客の意識に関する研究は中国では乏しいのが現状である。

本研究は中国成都市の伝統的資源を活用する観光地を対象として、観光客の意識の実態を定量的に明らかにすることを目的とした。さらに観光客の意識を観光地住民（商業者）と意識を比較し、今後の持続性のある観光地開発の方針を提言する。

本研究は、観光客の意識を定量的・統計的な複数の手法を用い、各手法の利点を活かして総合的で信頼性の高い結論を見いだそうとした点に特徴がある。

本研究は10章で構成されている。

第1章では、研究背景、研究目的、既往研究と本研究との関連について述べた。

第2章では、研究対象地選定と、対象地の特徴を整理した。対象地は四川省成都市の寛

窄巷子、錦里、文殊院、黃龍溪、安仁を抽出した。

第3章では、観光客の意識調査の方法を述べ、被験者の基本的な情報を整理した。

第4章では、総合満足度に特に強い影響を与える影響要因を CART 法（決定木分析）で探索した。その結果、「生活の様子を見る」が最も総合満足度を左右し、その上で、「夜のライトアップ」「歴史上人物の物語」に満足できれば、総合満足度が高まり、「住民生活の様子」に不満な場合、さらに「街並景観」「伝統的生活の説明」「歴史的建築物」への不満が重なると、総合満足度が低くなることを明らかにした。さらに対象地別の考察と第3章の結果との比較によって、テーマパーク娯楽型の観光地づくりは満足を下げる要因となる可能性を指摘した。

第5章では、CART 法を補完するために、CS 分析によって、重視すべき要素の抽出を広範に行った。重点的に維持すべき要素として「街並景観」「歴史的建築物」「伝統食」「自然景観」「清潔さや歩きやすさなどの基盤整備」が、維持すべき要素として「団らん」が、重点的に改善すべき要素として「生活文化体験」「住民生活の様子」「伝統的生活の説明」「休息」「夜のライトアップ」が抽出された。維持や改善しても観光客の満足向上への効果が薄い要素は、「伝統的土産物」「伝統以外の食事」「伝統以外の買い物」「麻雀」「伝統的演劇鑑賞」「観光客同士の出会い」であった。

CS 分析は観光客の満足度向上に対する影響度合いの統計的な精度は曖昧である。そこで、第6章では、観光客の各要素に対する期待と満足を比較し、観光前後の意識変化すなわち期待通りか期待外れかを明らかにして CS 分析を補完した。「街並景観」「歴史的建築物」「伝統食」は期待通りに満足、「生活文化体験」「住民生活の様子」「伝統的生活の説明」「地域の歴史文化を学ぶ」「歴史上人物の物語」は期待に反して不満、「自然景観」「休息」「団らん」は期待していなかったが意外に満足、その他の要素は期待しておらず満足も少ない、という結果を得た。

第7章では、テキストマイニング手法を用いて自由記述回答を分析した。その結果、伝統的資源全般に対するポジティブな評価を得たが、一方で、観光客・住民の両者のマナー問題、開発過剰の問題、基盤整備などの面にネガティブな評価を得た。さらに、ことばネットワーク分析から、休憩場所・説明板・トイレ等の基盤整備の不備が指摘され、商業者のサービス態度の悪さ、過剰開発、伝統的生活文化の薄弱化、価格の高さの問題も指摘された。

第8章では、観光客の意識と商業者の意識を比較した。観光客も商業者も重視している要素は「街並景観」「歴史的建築物」「伝統食」であった。観光客も商業者も見落としていたが、観光客の満足度が高かった要素は「休息」「団らん」「自然景観」であった。観光客

が期待していたにもかかわらず、満足が得られなかった要素は「生活文化体験」「伝統的生活の説明」「歴史文化を学ぶ」で、これらは商業者もその重要性を認識していなかった。また、商業者の地域に対する愛着や活動を聞いたところ、歴史・景観・文化を重視する意識は高かった。

第 9 章では、以上の結果を統合し、①観光客の期待と満足は高く、商業者もその価値を認識しており、継続して重点的に維持すべき要素、②観光客は期待に反して不満で、商業者は見落とししており、今後、重点的に改善すべき要素、③観光客も地域もその価値をあまり認識していなかったが、観光客の満足は高く今後は重点的に維持すべき要素、④観光客も地域もその価値に期待しておらず満足も低く、維持・改善の効果が薄い要素として整理した。観光客意識の現状は、娯楽型からオルタナティブ観光へ転換しつつある途上であり、受け入れ側はそれに対応できておらず、観光地開発政策の転換が望まれることを指摘した。

第 10 章は結論と提言であり、以上の成果を結論としてまとめるとともに、成果に基づいて、中国の伝統的資源活用型観光地における伝統的生活文化の継承や、観光客と商業者や行政の役割など、今後の政策展開に対する考察を述べた。

論文審査結果の要旨

本論文は、伝統的資源を活用する中国の観光地を対象として、従来は明らかにされていない観光客の意識の実態を定量的・統計的に明らかにしたものであり、学術的な新規性・意義を評価できる。さらに、地域住民（商業者）の意識との比較も重ね、定量的知見に基づいた政策提言を行っており、地域計画学に対する実用的な意義も評価できる。

研究手法としては、新しい統計手法である CART 法（決定木分析）や、CS 分析、テキストマイニング手法等を駆使し、各手法の利点を活かし欠点を補って総合的な結論を見いだしている点も評価できる。

論文は 10 章から構成されている。

第 1 章では研究背景・研究目的・既存研究と本研究の位置づけ・研究構成を的確に述べている。第 2 章では研究対象の選定理由および対象の情報を的確に述べている。第 3 章では意識調査の設計意図・内容・方法が述べられ、調査結果のうち被験者の基本的情報が整理されている。

第 4 章から第 8 章は各分析方法と分析結果が詳細に記載されている。

第 9 章では、第 4 章から第 8 章までの分析結果を統合して、総合的な整理と考察をおこ

なっている。①観光客の期待と満足は高く、商業者もその価値を認識しており、継続して重点的に維持すべき要素は「街並景観」「歴史的建築物」「伝統食」であり、その本物性が問われていた。②観光客は期待に反して不満で、商業者は見落とししており、今後、重点的に改善すべき要素は、生活文化に関する「生活文化体験」「住民生活の様子」「伝統的生活の説明」「住民とのふれあい」と地域の歴史文化に関する「地域の歴史文化を学ぶ」「歴史上の人物の物語」であった。③観光客も商業者もその価値をあまり認識していなかったが、観光客の満足は高く今後は重点的に維持すべき要素は、「自然景観」と「休息（のんびり過ごす）」「友人や家族との団らん」であった。自然景観や団らん・休憩の行動は、古鎮の歴史的環境と重なることによってその魅力を高めていることを指摘した。④観光客も商業者もその価値に期待しておらず満足も低く、維持・改善の効果が薄い要素は、「伝統的土産物」「伝統以外の食事」「伝統的演劇鑑賞」「麻雀」「観光客同士の出会い」であった。伝統的な景観・建築への期待と満足は伝統的資源の地域への観光から当然と考えられるが、生活文化体験が強く求められている実態、演劇や麻雀などが求められていない実態は予想外の結果であり、中国の観光客意識の現状は、すでに娯楽型からオルタナティブ観光へ転換しつつある途上にあり、受け入れ側はそれに対応できておらず、観光地開発政策の転換が急務であることを指摘した。

第10章は結論と提言であり、以上の成果を結論としてまとめるとともに、成果に基づいて、中国の伝統的資源活用型観光地における伝統的生活文化の継承や、観光客と商業者や行政の役割など、今後の政策展開に対する具体的な提案を述べている。

以上のように、中国における観光客の伝統的資源活用型観光地を対象として、本論文は従来検討が不十分であった観光客の意識の実態を定量的・統計的に明らかにし、信頼できる分析結果に基づいて地域環境保全と地域活性化のバランスのとれた持続性の高い今後の観光開発の方向性に対して新たな知見を提示している。

本論文の成果は地域計画分野・観光計画分野で有用な知見となるものであり、本論文が博士（工学）の学位論文として適格なものと判断した。